

聖書日課 『からし種』 2018. 4. 15～ 4. 22

<p>15 日 (日)</p> <p>エゼキエル 20章</p>	<p>「わたしは生きている。お前たちが尋ねても、わたしは答えない」(3節)。私たちの願い求めに主が答えない時、そこには理由がある。主なる神は単に「願いごとをかなえる神」ではなく、私たちとの間に生きた関わりを求め、私たちが主の御旨を尋ね求めて歩むのを待っておられる神だからである。</p>
<p>16 日 (月)</p> <p>エゼキエル 21章</p>	<p>「人の子よ、顔をエルサレムに向け、聖所に向かって言葉を注ぎませ」(2節)。聴く耳を持ちながらも主の御旨を聞かない人々への厳しい言葉が続く。主イエスが直面したのも、人々のこのような態度だったのだろう。その人々の立ち帰りのために執り成しを祈りつつ、主イエスは十字架に向かわれた。</p>
<p>17 日 (火)</p> <p>エゼキエル 22章</p>	<p>「わたしの怒りの火を吹きつけると、お前たちはその中で溶ける」(21節)。「流血の都」エルサレムを溶かすほどの激しさで、主の怒りが激しく燃えている。しかし、主の怒りには「お前たちは立ち帰って、生きよ」(18・32) という熱い祈りがいつもそこに込められていることを覚えたい。</p>
<p>18 日 (水)</p> <p>エゼキエル 23章</p>	<p>「こうして、わたしはこの地の不貞をやめさせる」(48節)。異教礼拝に堕ちたサマリヤとエルサレムの姿を「姦淫」として語る預言は吐き気を催すほどだ。しかし「不都合な真実」から目をそらし平然としている私たちの姿が、どれほど神に吐き気を催させているか。神の悲しみの言葉として読みたい。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com 大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2018. 4. 15～ 4. 22

<p>19日 (木)</p> <p>エゼキエル 24章</p>	<p>「あなたは彼らに対してしるしとなり、彼らはわたしが主であることを知るようになる」(27節)。人々に対する「しるし」となるため、エゼキエルの妻は命を落とす。なんとという不条理か。しかし、世界でさまざまな不条理を強いられている人々と「一つ」となるため、エゼキエルは厳しい召命を受けていく。</p>
<p>20日 (金)</p> <p>エゼキエル 25章</p>	<p>「人の子よ、顔をアンモン人に向けて、彼らに預言せよ」(2節)。アンモン、モアブなど、イスラエル周辺国への裁きが語られる。「復讐とあざけり」。民族ルーツの近い国同士の関係は難しい。私たちの身近な関係にもそのままあてはまるのではないか。隣人との間に響く、主の声を聴く者とされたい。</p>
<p>21日 (土)</p> <p>エゼキエル 26章</p>	<p>「人が探し求めても、お前は永久に見だされることはない」(21節)。繁栄を極め、すぐれた鉄器の生産で知られる地中海沿岸の国ティスルの滅亡の預言。軍事力による繁栄は、さらに強大な軍事大国バビロンの前に滅ぼされ、歴史から消えていく。私たちはどのような豊かさを求めて生きるのか。</p>
<p>22日 (日)</p> <p>エゼキエル 27章</p>	<p>「諸国の民の商人は」(節)。強さや豊かさに魅了され、に寄りすがった国々は、ティルスと共に消えていく。主のみ言葉に連なるのではなく、人の言葉、経験、力に繋がりがたくなる私たち。不安定な土台を神の強固な土台と勘違いしてしまう弱さを自覚し、赦された罪人として、主に委ねる歩みを祈り求めて</p>